

### 3. 回答結果と分析

#### (1) まとめと分析

(2) 以下に示される平成20年度前学期の集計結果について、設問ごとの分析を行った。各設問に対して肯定的な評価を行った学生の割合を算出し、科目別平均と全科目平均を示した。これらの数値から全体的な傾向及び各科目の特徴を把握し、今後の対策について提案を行った。なお、「英語」に関しては(計)の数値を分析の対象としている。また、今年度よりアンケートの設問に変更があったため、正確な経年変化をみることはできないが、参考に過去2年間の集計結果も併せて掲載する。

#### 1) 「あなた自身に関する質問」に対する学生の自己評価

##### 1-1) 出席状況

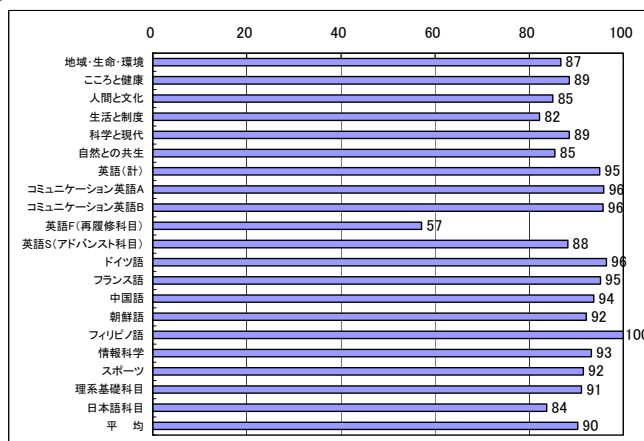
出席状況については、『全部出席』または『1-2回欠席』と回答した学生の割合を示した。この割合は、全科目平均で90%に達している。また、科目別の結果を見ても、半数以上の科目で90%以上の高い数値となっている。学生の出席状況は概ね良いと言える。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。

出席状況  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	86		90	
ところと健康	87		89	
人間と文化	90	87	84	86
生活と制度	86	88	82	89
科学と現代	89	85	87	86
自然との共生	90	88	89	89
英語(計)	93	94	94	94
コミュニケーション英語A・総合英語A			96	95
コミュニケーション英語B・総合英語B			95	93
英語C			91	96
英語F(再履修科目)			74	67
英語S(アドバンスト科目)			90	100
ドイツ語	93	94	92	85
フランス語	96	95	97	100
中国語	90	84	88	86
朝鮮語	90	91	94	92
フィリピン語	100	100	78	67
情報科学	91	100	93	
スポーツ	95	96	94	96
理系基礎科目	91	89	92	90
日本語科目	94	100	90	91
平均	91	90	91	91

表1 設問1-1 出席状況  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	87
ところと健康	89
人間と文化	85
生活と制度	82
科学と現代	89
自然との共生	85
英語(計)	95
コミュニケーション英語A	96
コミュニケーション英語B	96
英語F(再履修科目)	57
英語S(アドバンスト科目)	88
ドイツ語	96
フランス語	95
中国語	94
朝鮮語	92
フィリピン語	100
情報科学	93
スポーツ	92
理系基礎科目	91
日本語科目	84
平均	90



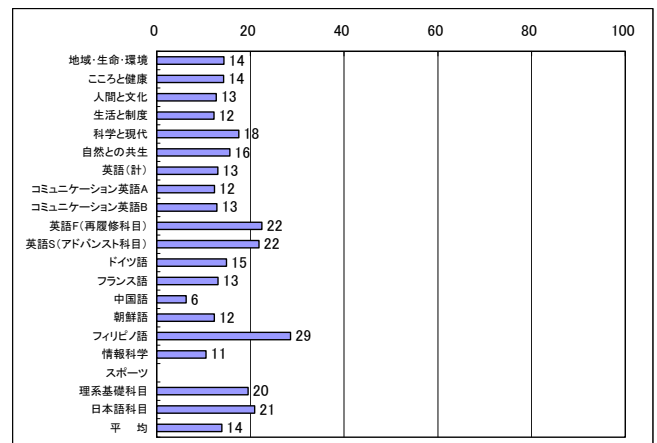
## 1-2) 授業時間外学習

「授業時間外学習」のうち、設問 1-2a は、1 週間の総合学習時間が『1 1 時間以上』または『8-1 1 時間程度』と回答した学生の割合を示している。全科目平均で 14% と大変低い値となっている。また、設問 1-2b では、アンケートを実施した授業に関する学習時間が『3 時間以上』または『2 時間程度』と回答した学生の割合を示している。当該授業科目について 2 時間以上授業時間外学習を行う学生の割合は、全科目平均で 12% とやはり大変低い値となっている。

現行の単位制度では、1 単位は標準 45 時間（「教員が教室等で授業を行う時間」及び「学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間」の合計）の学修を要する教育内容をもって構成されている。そのため、授業時間外の学習時間が短いことは問題である。そのような中で「フィリピン語」は 43% の値を得ている。これらの科目での課題の出し方も参考にして、学生の授業時間外学習を促していくことが必要である。

表2 設問1-2a 授業時間外学習  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	14	
こころと健康	14	
人間と文化	13	
生活と制度	12	
科学と現代	18	
自然との共生	16	
英語(計)	13	
コミュニケーション英語A	12	
コミュニケーション英語B	13	
英語F(再履修科目)	22	
英語S(アドバンスト科目)	22	
ドイツ語	15	
フランス語	13	
中国語	6	
朝鮮語	12	
フィリピン語	29	
情報科学	11	
スポーツ		
理系基礎科目	20	
日本語科目	21	
平均	14	

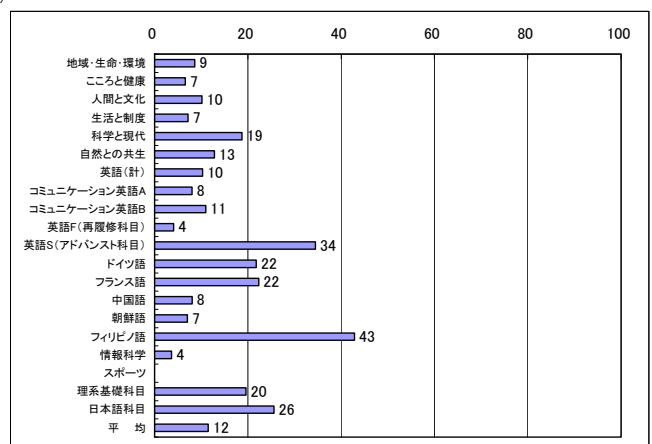


授業時間外学習  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	15		18	
こころと健康	14		15	
人間と文化	16	16	18	18
生活と制度	15	14	16	20
科学と現代	15	21	16	19
自然との共生	10	24	22	19
英語(計)	27	30	22	30
コミュニケーション英語A・総合英語A			17	32
コミュニケーション英語B・総合英語B			19	27
英語C			34	36
英語F(再履修科目)			28	29
英語S(アドバンスト科目)			27	30
ドイツ語	19	29	37	40
フランス語	38	39	40	33
中国語	23	25	24	28
朝鮮語	19	18	17	20
フィリピン語	0	33	33	33
情報科学	11	0	14	
スポーツ				
理系基礎科目	31	38	34	39
日本語科目	51	53	43	39
平均	21	26	23	27

表3 設問1-2b 授業時間外学習  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	9	
こころと健康	7	
人間と文化	10	
生活と制度	7	
科学と現代	19	
自然との共生	13	
英語(計)	10	
コミュニケーション英語A	8	
コミュニケーション英語B	11	
英語F(再履修科目)	4	
英語S(アドバンスト科目)	34	
ドイツ語	22	
フランス語	22	
中国語	8	
朝鮮語	7	
フィリピン語	43	
情報科学	4	
スポーツ		
理系基礎科目	20	
日本語科目	26	
平均	12	



### 1-3) 目的・目標達成度

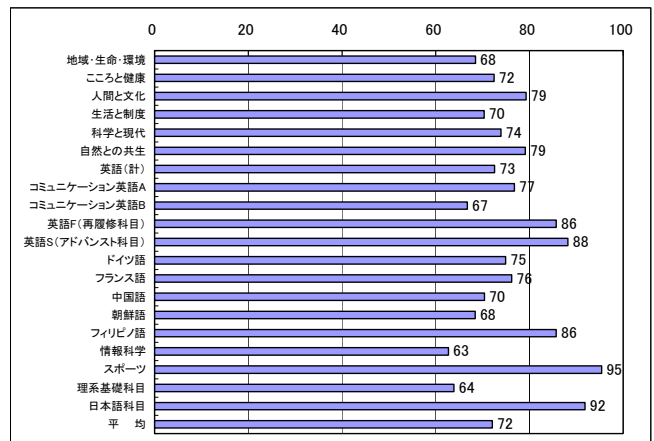
「目的・目標達成度」では、自分自身がこの授業の目的・目標を達成したかどうかを質問している。全科目平均で72%の学生が肯定的評価をしている。経年変化の平成18年度と19年度の値は、学生自身に関する質問ではなく、授業全体に関する質問の中で授業の目的・目標が達成されたかどうかを質問したものである。今学期の質問の趣旨とはやや異なる集計結果である。授業全体を客観的に評価する（平成18年度、19年度）よりも、自分自身が授業の目的・目標を達成したかどうかについて評価する場合に値が低くなる傾向が出ている。その中でも「スポーツ」は95%と、例年と同じ程度の割合学生が授業の目的・目標を達成したと答えている。一方、「情報科学」では63%、「理系基礎科目」は64%と、スポーツと比べ30ポイント以上の差がある。「スポーツ」は実技であるので、目的・目標達成度が認識しやすいという側面はあると思うが、科目群によって目的・目標達成度が大きく異なることは、カリキュラムの面で問題がないか、検証する必要がある。

目的・目標達成度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	83		82	
こころと健康	75		80	
人間と文化	86	83	87	83
生活と制度	89	79	78	85
科学と現代	77	77	82	81
自然との共生	75	86	89	87
英語(計)	86	90	87	89
コミュニケーション英語A・総合英語A			92	93
コミュニケーション英語B・総合英語B			80	84
英語C			89	92
英語F(再履修科目)			90	96
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	71	87	72	91
フランス語	83	95	90	97
中国語	81	89	85	91
朝鮮語	87	85	93	95
フィリピン語	88	100	100	78
情報科学	77	100	70	
スポーツ	95	93	93	96
理系基礎科目	75	78	76	82
日本語科目	100	100	98	100
平均	81	84	82	87

表4 設問1-3 目的・目標達成度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	68
こころと健康	72
人間と文化	79
生活と制度	70
科学と現代	74
自然との共生	79
英語(計)	73
コミュニケーション英語A	77
コミュニケーション英語B	67
英語F(再履修科目)	86
英語S(アドバンスト科目)	88
ドイツ語	75
フランス語	76
中国語	70
朝鮮語	68
フィリピン語	86
情報科学	63
スポーツ	95
理系基礎科目	64
日本語科目	92
平均	72



### 1-4) 学習資源

「学習資源」に関する設問は、今学期より新たに設けられた。学習内容や課題でわからないことがあった場合に、『友人や先輩に教わる』という回答が一番多く、次いで『本などを頼りに独力で解決する』『教員に教わる』『その他』『スタディヘルプディスクを利用する』の順となっている。スタディヘルプディスクの利用が少ない理由としては、担当科目が英語・数学・物理・生物と、主に理数系であることが関係していると思われる。理数系以外の質問も受け付けていることや、授業で教員から積極的に紹介するなどして、スタディヘルプディスクの利用を促していくことが必要であろう。

さらに、『その他』の詳しい内容を見ると、“インターネット”や“自分で”という独力で解決する意見が合計で142%と一番多かった。これらの回答は、選択肢③の『本などを頼りに独力で解決する』と意味的には重複しているが、今回は『その他』のまま集計している。学生に質問の意味がよく伝わっていなかったと考えられるので、今回は質問文を工夫したい。また、“放置（何もしない、諦める）”という回答が12%あった。学習内容や課題が、わからないまま授業を終えることになる学生がわずかながらいることになる。授業中の学生への啓発が必要であろう。

表5 設問1-4 学習資源  
(全回答数に対する割合(%))

	平成20年度				
	①教員	②友人や先輩	③独力	④SHD	⑤その他
地域・生命・環境	11	47	35	1	5
ところと健康	11	47	37	1	4
人間と文化	19	41	32	1	6
生活と制度	15	41	38	1	5
科学と現代	14	41	40	3	3
自然との共生	19	39	35	1	6
英語(計)	13	52	32	1	2
総合英語A	15	51	31	1	1
総合英語B	9	55	32	1	2
英語F(再履修科目)	20	22	53	2	4
英語S(アドバンスト科目)	34	33	31	1	2
ドイツ語	15	45	37	1	3
フランス語	21	51	26	0	2
中国語	21	48	30	0	1
朝鮮語	27	39	33	0	1
フィリピン語	42	33	17	0	8
情報科学	20	57	19	1	3
スポーツ	35	53	8	0	3
理系基礎科目	10	49	37	2	2
日本語科目	51	29	20	0	0
平均	15	48	32	1	3

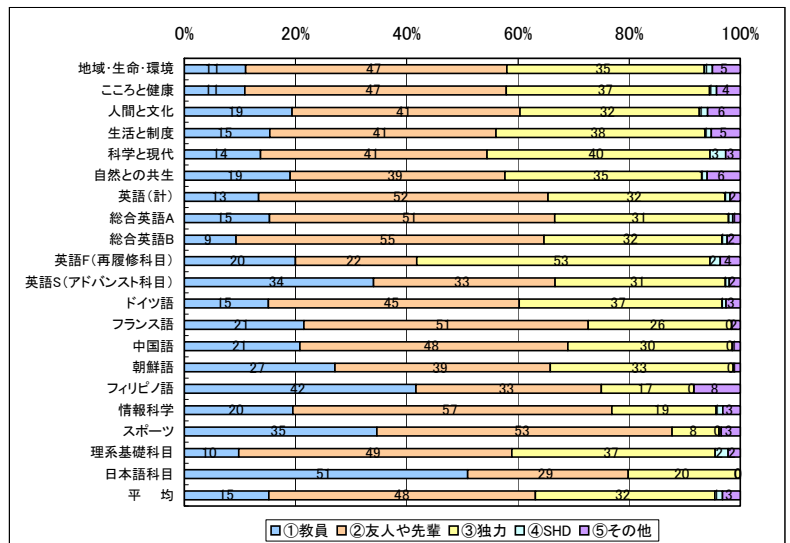


表5-2 設問1-4 学習資源⑤その他(%)

	放置(何もしない、諦める)	わからないことはない	独力				授業中に解決	TA	親・きょうだいに教わる	友人に教わる	先輩に教わる	授業ファイル	moodle	A	B	合計(A+B)
			インターネット	自分で	教科書・プリント	辞書・参考書								小計	無記入・意味不明	
地域・生命・環境	18	4	22	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	45	55	100
ところと健康	8	2	6	3	2	0	2	0	2	0	0	0	0	23	77	100
人間と文化	7	4	12	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	26	74	100
生活と制度	14	6	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	69	100
科学と現代	0	0	12	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	15	85	100
自然との共生	7	2	10	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	24	76	100
英語(計)	14	1	4	3	0	5	0	0	1	0	1	0	1	31	69	100
コミュニケーション英語A	12	0	4	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	27	73	100
コミュニケーション英語B	16	2	5	2	0	0	0	0	2	0	2	0	2	33	67	100
英語F(再履修科目)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
英語S(アドバンスト科目)	0	0	0	33	0	33	0	0	0	0	0	0	0	67	33	100
ドイツ語	55	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	100	0	100
フランス語	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	75	100
中国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
朝鮮語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
フィリピン語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
情報科学	9	3	12	12	3	0	0	35	3	0	0	0	0	76	24	100
スポーツ	3	3	0	3	0	0	0	3	6	0	0	0	0	18	82	100
理系基礎科目	19	0	6	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	32	68	100
日本語科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12.0	2.6	9.9	1.8	1.4	1.1	0.2	2.3	0.7	0.5	0.2	0.4	0.2	33.2	66.8	100.0

## 2) 「授業内容・授業方法に関する質問」に対する学生の評価

### 2-1) 授業の難易度

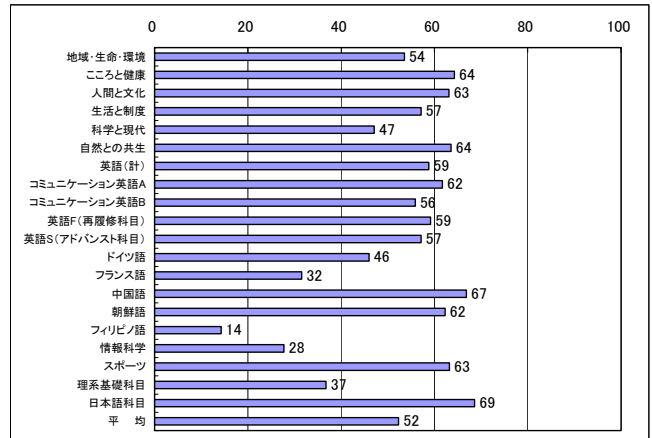
「授業の難易度」については、選択肢が5択であるため、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示している。全科目平均で52%となっていて、半数近い学生がレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「フランス語」「情報科学」「理系基礎科目」については、その意味を解釈する、より深いデータ収集を行い、レベルの再設定などを検討すべきである。この設問の評価が低くなる要因は、学生の学習履歴の多様化、大学での学習技術の未習得、学習ニーズ分析不足など複合的である。授業の検討のみならず、プレイメントテストの実施による正確な学力把握や、未習・補習、学習相談窓口等の個別対応型学習支援サービスの提供もあわせて考える必要がある。なお、「フィリピン語」の評価が14%となっているのは、開講科目数や受講生数が少ないことが関係していると思われる。

レベル  
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	56		48	
こころと健康	43		47	
人間と文化	49	48	52	45
生活と制度	54	46	47	49
科学と現代	41	39	45	42
自然との共生	50	52	51	47
英語(計)	51	53	52	56
コミュニケーション英語A・総合英語A			57	56
コミュニケーション英語B・総合英語B			48	54
英語C			50	63
英語F(再履修科目)			48	53
英語S(アドバンス科目)			63	50
ドイツ語	33	37	31	33
フランス語	34	37	31	44
中国語	49	46	53	56
朝鮮語	56	44	61	45
フィリピン語	0	0	0	0
情報科学	39	0	24	
スポーツ	60	55	54	59
理系基礎科目	35	31	35	33
日本語科目	54	64	71	54
平均	46	45	45	48

表6 設問2-1 授業の難易度  
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	54
こころと健康	64
人間と文化	63
生活と制度	57
科学と現代	47
自然との共生	64
英語(計)	59
コミュニケーション英語A	62
コミュニケーション英語B	56
英語F(再履修科目)	59
英語S(アドバンス科目)	57
ドイツ語	46
フランス語	32
中国語	67
朝鮮語	62
フィリピン語	14
情報科学	28
スポーツ	63
理系基礎科目	37
日本語科目	69
平均	52



### 2-2) 授業の進捗

「授業の進捗」については、選択肢が5択であるため、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示している。全科目平均の肯定的評価が70%であり、開講科目数・受講者数の少ない「フィリピン語」を除くと「情報科学」と「理系基礎科目」が低い値となっている。この二つの科目に関しては「授業の難易度」でも低い値を示している。授業の組み立て方、カリキュラムについての再検討が必要ではないだろうか。

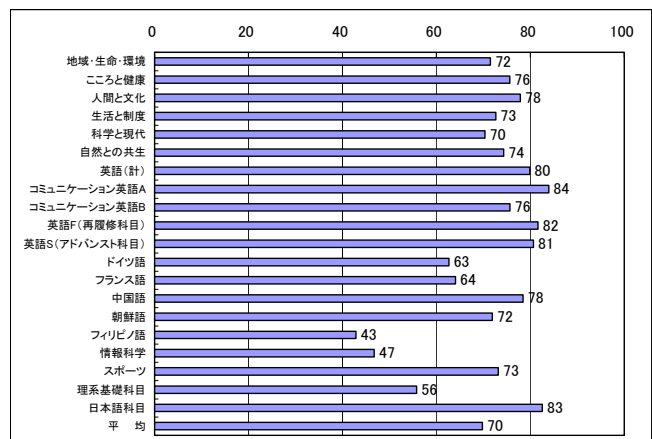
また、平成18年度及び19年度の値に比べて、今学期の値が低くなった要因としては、設問の設定の違いが関係していると考えられる。平成18年度及び19年度は『授業の進捗および毎回の授業における時間配分は適切だった』という質問に対して、①強くそう思う②まあそう思う③あまりそう思わない④全くそう思わない、の4つの選択肢から回答させていた。下の表の値は、①強くそう思う②まあそう思う、という回答の合計値を現している。一方、今学期は『この授業の進捗について、どのように感じましたか』という質問に対して、①早すぎた②やや早かった③ちょうどよい④やや遅かった⑤遅すぎる、の5つの選択肢から回答させた。下表の値は③ちょうどよい、という回答のみを示している。内容的には同じだが、質問の仕方によって評価が異なっているという点に留意されたい。

進捗・時間配分  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	74		83	
こころと健康	82		88	
人間と文化	86	88	88	90
生活と制度	92	85	85	87
科学と現代	84	83	87	85
自然との共生	81	85	89	90
英語(計)	91	95	91	92
コミュニケーション英語A・総合英語A			95	94
コミュニケーション英語B・総合英語B			86	87
英語C			92	97
英語F(再履修科目)			96	97
英語S(アドバンス科目)			100	100
ドイツ語	79	88	78	93
フランス語	86	95	96	98
中国語	84	91	91	96
朝鮮語	91	90	95	95
フィリピン語	63	83	89	100
情報科学	74	100	70	
スポーツ	93	92	91	93
理系基礎科目	79	81	80	82
日本語科目	94	100	97	100
平均	83	87	86	89

表7 設問2-2 授業の進捗  
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	72
こころと健康	76
人間と文化	78
生活と制度	73
科学と現代	70
自然との共生	74
英語(計)	80
コミュニケーション英語A	84
コミュニケーション英語B	76
英語F(再履修科目)	82
英語S(アドバンス科目)	81
ドイツ語	63
フランス語	64
中国語	78
朝鮮語	72
フィリピン語	43
情報科学	47
スポーツ	73
理系基礎科目	56
日本語科目	83
平均	70



### 2-3) 教員の話し方

「教員の話し方」については、全科目平均では74%の肯定的評価となっている。各科目を比較すると「朝鮮語」と「日本語科目」が90%を超えてるのに対し、「フィリピン語」「情報科学」「理系基礎科目」が50~60%台の低い値を示している。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法（テクニック等）に起因する場合が考えられる。「情報科学」「理系基礎科目」は「授業の難易度」についても、低い評価を受けており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。

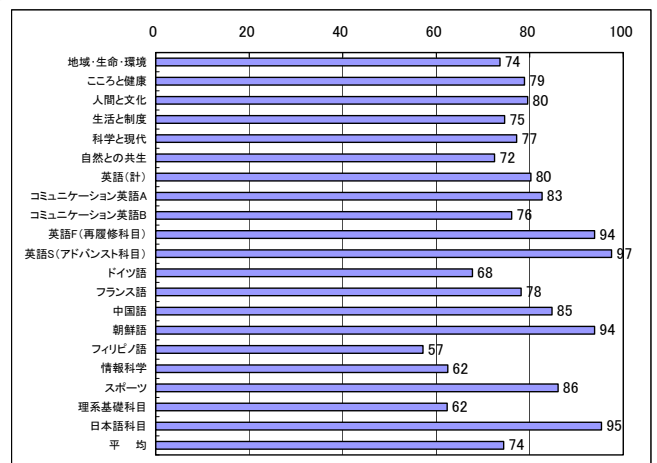
経年変化については、設問のタイトルこそ「わかりやすさ」「教員の話し方」と異なるものの、設問の内容は、平成18年及び19年も今学期も全く同じ文言（教員の説明の仕方はわかりやすかった ①強くそう思う②まあそう思う③あまりそう思わない④全くそう思わない）を使っているので比較の対象となる。それによると例年、前学期は70%台の評価となっており、後学期は80%の値に上昇している。これは、学生自身が大学の授業に慣れてきたということが言えるのではないだろうか。

わかりやすさ  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	80		75	
ところと健康	70		77	
人間と文化	82	82	86	80
生活と制度	91	77	76	82
科学と現代	77	72	78	74
自然との共生	71	82	85	81
英語(計)	86	90	86	88
コミュニケーション英語A-総合英語A			92	91
コミュニケーション英語B-総合英語B			78	84
英語C			88	92
英語F(再履修科目)			87	96
英語S(アドバンス科目)			98	100
ドイツ語	61	82	58	83
フランス語	80	95	87	96
中国語	80	84	89	93
朝鮮語	88	85	96	96
フィリピン語	88	83	100	89
情報科学	65	100	58	
スポーツ	92	94	90	95
理系基礎科目	65	69	67	72
日本語科目	97	100	98	99
平均	76	81	78	83

表8 設問2-3 教員の話し方  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	74	
ところと健康	79	
人間と文化	80	
生活と制度	75	
科学と現代	77	
自然との共生	72	
英語(計)	80	
コミュニケーション英語A	83	
コミュニケーション英語B	76	
英語F(再履修科目)	94	
英語S(アドバンス科目)	97	
ドイツ語	68	
フランス語	78	
中国語	85	
朝鮮語	94	
フィリピン語	57	
情報科学	62	
スポーツ	86	
理系基礎科目	62	
日本語科目	95	
平均	74	



### 2-4) 教材の使い方

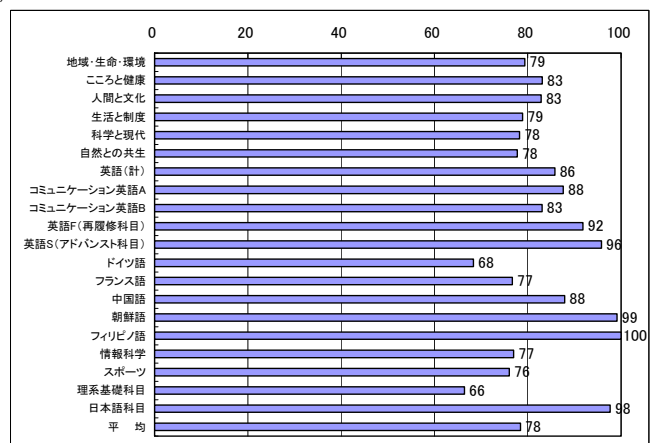
「教材の使い方」は、学生の理解を促すため、教授手法としてパソコン、プロジェクターの等の機材や模型、標本等の実物教材、また配付資料や教科書等を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では78%の肯定的評価を得た。科目ごとに見てみると「朝鮮語」が99%、「フィリピン語」が100%と高い肯定的評価を得ているのに対し、「ドイツ語」と「理系基礎科目」は若干低い数値となっており、この2科目については「教員の話し方」においてもやや低い値を示している。科目特性により視聴覚教材の使用の意味に差異があるので、必ずしもこの数値が授業の質を表現するものとはならないが、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いのないので、積極的に使用すべきであろう。

視聴覚教材  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	87		82	
ところと健康	80		84	
人間と文化	84	85	82	83
生活と制度	85	74	70	80
科学と現代	79	83	86	86
自然との共生	82	90	89	89
英語(計)	84	88	84	84
コミュニケーション英語A-総合英語A			86	85
コミュニケーション英語B-総合英語B			82	82
英語C			86	88
英語F(再履修科目)			87	92
英語S(アドバンス科目)			96	100
ドイツ語	58	70	60	84
フランス語	77	90	88	92
中国語	70	81	81	86
朝鮮語	91	87	93	99
フィリピン語	50	83	78	99
情報科学	85	100	84	
スポーツ				
理系基礎科目	65	68	67	69
日本語科目	100	89	91	92
平均	77	80	79	81

表9 設問2-4 教材の使い方  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度	
	前	後
地域・生命・環境	79	
ところと健康	83	
人間と文化	83	
生活と制度	79	
科学と現代	78	
自然との共生	78	
英語(計)	86	
コミュニケーション英語A	88	
コミュニケーション英語B	83	
英語F(再履修科目)	92	
英語S(アドバンス科目)	96	
ドイツ語	68	
フランス語	77	
中国語	88	
朝鮮語	99	
フィリピン語	100	
情報科学	77	
スポーツ	76	
理系基礎科目	66	
日本語科目	98	
平均	78	



## 2-5) 双方向性

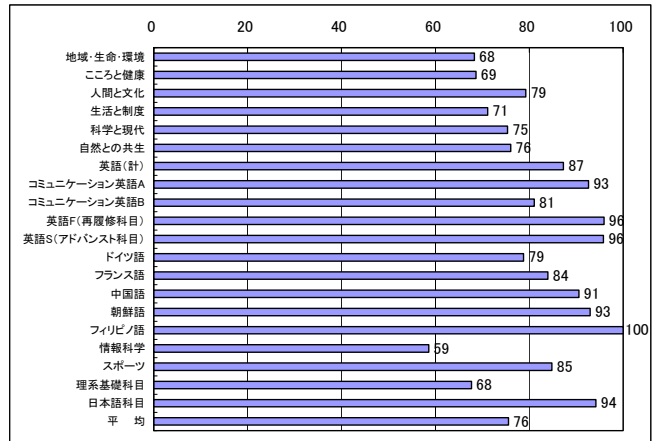
この設問は、教員と学生の間でコミュニケーションが図られているかを確認する指標である。全科目平均では76%の肯定的評価を得た。科目別の結果を見ると「情報科学」の数値が低くなっており、学生が教員とのさらなるコミュニケーションを求めていることが示唆される。また、大人数講義の科目においても、今以上に教員と学生の間でコミュニケーションを図っていくことが望まれる。コミュニケーションの手法をFD等で積極的に学び、授業に取り入れてほしい。

コミュニケーション  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	67		66	
ところと健康	53		62	
人間と文化	80	79	81	76
生活と制度	69	67	84	71
科学と現代	62	66	70	68
自然との共生	68	77	77	71
英語(計)	94	96	92	93
コミュニケーション英語A(総合英語A)			96	96
コミュニケーション英語B(総合英語B)			85	88
英語C			94	98
英語F(再履修科目)			94	99
英語S(アドバンスト科目)			100	100
ドイツ語	79	92	73	89
フランス語	88	95	91	99
中国語	77	86	86	90
朝鮮語	91	88	92	97
フィリピン語	100	100	89	100
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	86	90
理系基礎科目	68	68	67	69
日本語科目	94	98	100	99
平均	74	79	76	80

表10 設問②-5 双方向性  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	68
ところと健康	69
人間と文化	79
生活と制度	71
科学と現代	75
自然との共生	76
英語(計)	87
コミュニケーション英語A	93
コミュニケーション英語B	81
英語F(再履修科目)	96
英語S(アドバンスト科目)	96
ドイツ語	79
フランス語	84
中国語	91
朝鮮語	93
フィリピン語	100
情報科学	59
スポーツ	85
理系基礎科目	68
日本語科目	94
平均	76



## 2-6) シラバスへの準拠

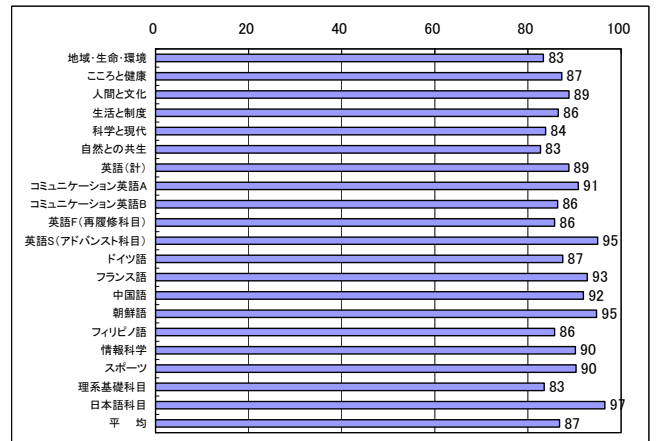
「シラバスへの準拠」については、一番低い値でも「地域・生命・環境」「理系基礎科目」の83%、全科目平均で87%を得ていて、高い肯定的評価を得た。多くの学生が「シラバスどおりに授業が行われた」と感じていると言える。シラバスに書かれている内容は教員と学生との間の契約事項としての役割もっている。今後もシラバスに沿った授業を行っていくことが求められる。また、当初のシラバスとは異なる授業を行う場合にも、シラバスを変更した上で、学生に変更点や変更理由をきちんと説明することが重要である。

シラバスどおりの授業  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	88		84	
ところと健康	88		89	
人間と文化	91	87	90	89
生活と制度	92	86	85	88
科学と現代	84	84	87	86
自然との共生	86	86	90	88
英語(計)	90	94	90	91
コミュニケーション英語A(総合英語A)			92	91
コミュニケーション英語B(総合英語B)			88	89
英語C			92	93
英語F(再履修科目)			91	95
英語S(アドバンスト科目)			94	100
ドイツ語	77	90	79	92
フランス語	94	99	98	98
中国語	84	92	95	95
朝鮮語	94	84	94	96
フィリピン語	63	100	100	100
情報科学	86	100	87	
スポーツ	89	90	90	93
理系基礎科目	85	88	87	89
日本語科目	97	96	98	99
平均	87	88	88	90

表11 設問2-6 シラバスへの準拠  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	83
ところと健康	87
人間と文化	89
生活と制度	86
科学と現代	84
自然との共生	83
英語(計)	89
コミュニケーション英語A	91
コミュニケーション英語B	86
英語F(再履修科目)	86
英語S(アドバンスト科目)	95
ドイツ語	87
フランス語	93
中国語	92
朝鮮語	95
フィリピン語	86
情報科学	90
スポーツ	90
理系基礎科目	83
日本語科目	97
平均	87



## 2-7) 改善への意欲

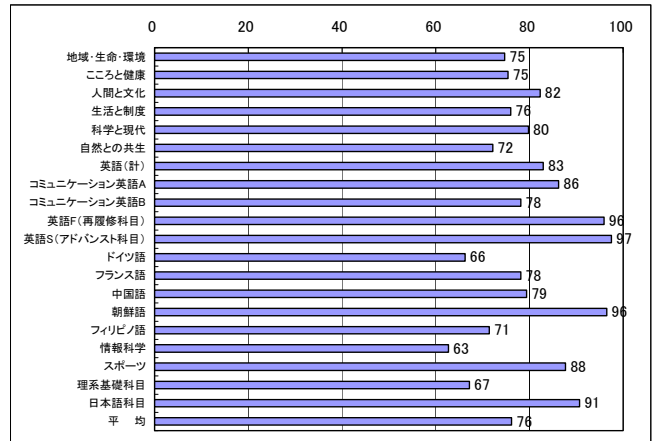
「改善への意欲」については、学生から意見を聞くなどして授業を改善する努力に対し、全体では76%の学生から肯定的評価を得た。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から授業の問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識しているのか、改善に向けてどのような対処を行うのかということ、学生に伝えることが必要であろう。学生にとって当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

改善度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	73	74	74	
ところと健康	65		75	
人間と文化	84	80	79	79
生活と制度	79	74	69	78
科学と現代	68	72	75	76
自然との共生	72	78	82	81
英語(計)	84	88	85	87
コミュニケーション英語A-総合英語A			90	89
コミュニケーション英語B-総合英語B			79	83
英語C			86	89
英語F(再履修科目)			91	88
英語S(アドバンス科目)			94	100
ドイツ語	61	84	64	83
フランス語	78	91	85	96
中国語	69	83	75	87
朝鮮語	85	87	91	95
フィリピン語	88	100	78	89
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	88	89
理系基礎科目	69	71	69	75
日本語科目	86	89	86	95
平均	73	79	76	82

表12 設問2-7 改善への意欲  
(全回答数に対するA, B, E評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	75
ところと健康	75
人間と文化	82
生活と制度	76
科学と現代	80
自然との共生	72
英語(計)	83
コミュニケーション英語A	86
コミュニケーション英語B	78
英語F(再履修科目)	96
英語S(アドバンス科目)	97
ドイツ語	66
フランス語	78
中国語	79
朝鮮語	96
フィリピン語	71
情報科学	63
スポーツ	88
理系基礎科目	67
日本語科目	91
平均	76



## 2-8) 授業の満足度

「授業の満足度」については、全体で79%の肯定的評価を得た。その中で「中国語」「朝鮮語」「フィリピン語」の語学系、また「スポーツ」「日本語科目」において90%以上の高い評価を得ていて、全科目を見ても約80%前後肯定的評価を得ている。

共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。満足度の向上の為に、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

満足度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	81		79	
ところと健康	73		80	
人間と文化	83	81	84	81
生活と制度	88	76	74	82
科学と現代	76	73	81	80
自然との共生	72	83	88	84
英語(計)	86	90	87	88
コミュニケーション英語A-総合英語A			92	91
コミュニケーション英語B-総合英語B			79	83
英語C			89	93
英語F(再履修科目)			88	93
英語S(アドバンス科目)			98	100
ドイツ語	68	84	68	89
フランス語	84	95	85	99
中国語	81	89	87	92
朝鮮語	89	83	96	96
フィリピン語	88	83	100	78
情報科学	73	100	66	
スポーツ	94	93	93	94
理系基礎科目	70	73	71	76
日本語科目	89	100	98	99
平均	79	81	80	84

表13 設問2-8 授業の満足度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成20年度
	前
地域・生命・環境	79
ところと健康	82
人間と文化	85
生活と制度	79
科学と現代	79
自然との共生	78
英語(計)	84
コミュニケーション英語A	88
コミュニケーション英語B	80
英語F(再履修科目)	94
英語S(アドバンス科目)	97
ドイツ語	79
フランス語	80
中国語	91
朝鮮語	97
フィリピン語	100
情報科学	70
スポーツ	93
理系基礎科目	69
日本語科目	99
平均	79

